

第3回 『豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会』

資料－2

今までの議事内容と今後の進め方

平成27年8月25日

豊 田 市

# 第1回・第2回検討委員会(平成26年度)の議事内容

第1回検討委員会

H26  
10  
17

## ①現状把握

### 【3つの視点での課題の整理】

#### 自然環境の視点

- 魚類の生息環境の悪化
  - 瀬淵の減少、アーマーコート化、水温・水質の悪化等により魚類の生息・産卵環境が悪化している
  - 横断工作物がアユの遡上・降下の環境を阻害している
  - 流量の減少が在来種の生息域を狭めている
- 川から陸域まで連続した生物の生息環境の減少
  - 一部の種が繁殖し、生物の多様性が低下している
  - 外来種が侵入し、在来種に悪影響を与えている
  - 水源涵養林の状況と流量の関係の学術研究がなされていない
  - エコトーンの減少により、生息環境の多様性が低下している
- 治水・架橋に伴う環境の変化
  - 治水工事による環境の改変で、生物の生息環境に影響がある
  - 橋脚による水の流れの変化で、河床地形や生物の生息環境に影響がある
- 外来種の増加
  - 効果的な駆除ができていない。効果的な駆除方法が構築できていない

#### まちづくりの視点

- 矢作川と支川の連続性の分断
  - 矢作川と支川の落差が魚類の移動を阻害している
  - 矢作川と支川の生物の連続性が不足している
- 矢作川と周辺公園等の連続性の分断
  - 矢作緑地と市街地の公園緑地との連続性が不足している
- ヒートアイランド強度の強化
  - ヒートアイランドを緩和する施策が不足し、効果が得られていない

#### 流域管理の視点

- 計画的かつ連携された河川管理が未実施
  - 流域住民や流域市町との連携が不足している
  - 活動する人々の河川環境に対する知識が不足している
  - 次世代の担い手が不足している
- 矢作川に対する住民意識の低下
  - 矢作川に対する流域住民の意識が薄れている
  - 地域における環境・歴史文化を次世代へ継承する活動が不足している

### 【第1回検討委員会における承認事項】

- 「豊田市矢作川活性化プラン検討委員会規約(案)」について、内容の確認がなされ、原案が了承された。
- 「豊田市矢作川活性化プラン検討委員会の情報公開(案)」について、内容の確認がなされ、原案が了承された。
- 豊田市矢作川河川環境活性化プラン策定の進め方について、内容の確認がなされ、承認を得た。
- 「自然環境の視点」「まちづくりの視点」「流域管理の視点」の3つの視点での課題整理について承認を得た。

## ②課題の整理

第2回検討委員会

H27  
3  
3

## ③課題の評価

### 【3つの視点での対策方針】

#### 自然環境の視点における対策方針

- 分散型落差工や水制工設置などにより、瀬、淵、ワンドのある多様性の高い河床をつくる
- 水生生物が、より移動しやすい魚道を検討する
- 在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる
- 砂州の切り下げなどにより、氾濫力の向上による植生の攪乱頻度を増やす
- 水源保全林の保水力回復により、水量を改善する
- 流量の効率的・効果的な水利用の合理化を検討する
- 治水整備(河道掘削・樹木伐開)や橋梁整備による河川環境保全対策を検討する
- 生態研究により、駆除方法を構築し実践する

#### 【まちづくりの視点における対策方針】

- 合流部の改善と支川の多自然川づくりにより、矢作川との生態系の連続性を高める
- 市街地内の公園や都市河川の多自然化により、矢作川の自然をまちに導く
- 在来植生による明るい河畔林と河岸の緩傾斜化により、緩やかな水際のある多様性の高い河畔林をつくる
- 高木の植樹により緑陰率を増やす
- 市街地内公共施設・民有地緑化や街路樹植栽を促進する

#### 【流域管理の視点における対策方針】

- 流域市町や河川管理者との連携により、官民共働による河川愛護団体の設立と育成を目指す支援システムをつくる
- 活動団体をネットワーク化し、協力体制をつくる
- 流域住民へ河川愛護精神を啓発する
- 安全な水際をつくり親水性を向上させる
- 川遊び体験イベントを開催し、川好きな子ども(川ガキ)を育てる
- 講座開催や史跡めぐりなどにより、歴史・文化遺産へ触れる機会を提供する
- 歴史・文化遺産を伝承する人材を育成する

## ④対策方針の決定

### 【第2回検討委員会における承認事項】

- 矢作川カルテ概要版について、3つの視点の対策方針について、内容の確認がなされ、承認を得た。
- 4つ目の視点として「人の利活用の視点(矢作緑地)」を追加し、対策方針の検討項目について内容の確認がなされ、承認を得た。

### 【4つ目の視点【人の利活用の視点(矢作緑地)】の追加】

#### 【現況把握及び課題の整理①】

- 川の利用の減少
  - ・矢作緑地内の回遊性の不足
  - ・木陰等の休憩場所の不足

#### 【課題の評価①】

- ・矢作緑地内における回遊性の確保

#### 【対策方針の検討項目①】

- ・市街地から矢作緑地へのアクセスの向上
- ・集客性の高い新たな魅力の模索
- ・川あそびの普及と多様化

#### 【現況把握及び課題の整理②】

- 親水性の低下
  - ・河床の二極化等による親水性の低下
  - ・密生した河畔林によるアクセス性の低下

#### 【課題の評価②】

- ・親水性の向上

#### 【対策方針の検討項目②】

- ・親水性の向上が必要な箇所(区間)の設定
- ・地域住民との共働による低水路河岸や河畔林の整備

## ⑤矢作川カルテ素案の提示

⑥めざす矢作川の姿の追及

⑦良好な河川環境の保全創出に向けた提言

⑧市民意識の反映

第3回検討委員会(平成27年8月25日)

●矢作川カルテの作成

- 「自然環境」「まちづくり」「流域管理」「人の利活用」の4つの視点で、課題、要因、対策方針をとりまとめ
- 河道状況から、5つの区間に区分してとりまとめ

矢作川カルテを基に、本プランのめざす「活性化された良好な河川環境」を整理。

自然環境の視点

市民にとって、より美しくより自然豊かな矢作川

まちづくりの視点

市民が豊かな自然の恵みをより多く享受している矢作川

流域管理の視点

より多くの市民の手により豊かな自然が守られている矢作川

人の利活用の視点

より多くの市民に利用・活用される矢作川

活性化された良好な河川環境

具体的にイメージ化

各視点のイメージの融合

流域管理の視点

まちづくりの視点

人の利活用の視点

自然環境の視点

めざす矢作川の姿

具体的なイメージの合意形成

第4回検討委員会(平成27年10月21日)

●めざす矢作川の姿のイメージの具現化に向けた対策の提言

カルテの5つの区間毎に、橋梁など改変箇所を重点に具体的な対策を提言する。

- 区間① : 豊田岡崎線橋梁(計画)上下流
  - 区間② : 竜宮橋上下流
  - 区間③-1 : 豊田大橋上下流
  - 区間③-2 : 高橋上下流
  - 区間④ : 北バイパス橋梁(計画)上下流
  - 区間⑤ : 越戸ダム上流
- 重点検討区間

事例:北バイパス橋梁下流部:瀬淵創出の対策工

分散型落差工や水制工により、川の営力を補助し、瀬淵を創出



●効果の予測

提案した対策工について、抽出した課題にフィードバックし、対策実施後の効果を予測する。

●プラン素案のとりまとめ

<とりまとめ事項>

- ①自然の保全・創出対策(自然環境の視点)
- ②矢作川環境と市街地との連続性(まちづくりの視点)
- ③地域住民との共働による流域管理体制(流域管理の視点)
- ④矢作緑地の将来利活用(人の利活用の視点)

<目標時期の設定>

短期、中期、長期の目標を設定する

シンポジウムの開催(平成27年11月29日)

アンケート調査の実施

第5回検討委員会(平成28年2月)

●市民意見の反映

●プランの修正

●合意形成

矢作川河川環境活性化プラン策定